

# 見て・聞いて・実践

会津坂下町では、毎年、町の課題を解決すべく、テーマを決めて、行政視察を行っています。その内容を報告します。

## 議会改革特別委員会

### 北海道芽室町議会（7月31日）

#### テーマ「議会改革」

議会改革年度調査4年連続全国一位（早稲田大学マニフェスト研究所実施）の芽室町議会は議会改革の「先進地」として全国から注目を集めています。そのキーワードは住民参加と情報の共有で、「分かりやすい議会」「開かれた議会」「行動する議会」を目指しています。議会基本条例に基づいた議会活性化計画を策定し、町民との意見交換、町民20人からなる議会モニター制度、北海道大学教授らの議会サポーター制度、そして分かりやすい議案の説明と公表にICTを活用し、これらの先には、町民の福祉の向上があります。行政の追認脱却を目指した改革は議員の意識と町民の反応を変えました。研修を踏まえ、わが町議会に参考になることも多く、今後出来るものから取り組んで参ります。



## 課題と向き合う

## 行財政改革検討特別委員会

### 群馬県大泉町（7月17日）

#### テーマ「在住外国人との共生」

大泉町の人口は、約42000人。そのうち約8000人が外国人であり、人口に占める割合が高い町です。

平成元年、中小企業が中心となり「外国人も同じ人間。人道的に迎え入れよう」という考えのもと、「東毛地区雇用安全促進協議会」が組織されました。

多文化共生事業として大泉町多文化共生コミュニティセンターを設置し（平成19年4月設置）総合窓口で「防災マニュアル概要版」「ゴミ収集カレンダー」他さまざまな情報を多言語で紹介され、町や地域からのさまざまな情報や日本での生活や習慣、文化などを、わかりやすく説明する取り組みがなされており。

国際色豊かなイベントも随時開催され、外国人住民を地域の「生活者」としてとらえた施策実施の必要性が改めて浮き彫りとなり、わが町でも参考とすべき点が見えてまいりました。



### 長野県飯綱町議会（7月16日）

#### テーマ「議会改革と公共交通」

飯綱町は財政破綻状態から議会改革に着手し、全国の自治体から注目される年間170あまりの議会の視察を受け入れている町であります。

この町の行った議会改革は、住民に信頼される新しい地方議会を目指して議会への住民参加を広げ、自治意識を高めることにより「議会の見える化」を推し進めました。

具体的な施策は「町民と議会との懇談会」等住民参加推進、町民から募った政策サポーター制度、議長・副議長志願者の所信表明などが、それらは「議会基本条例」に制定されています。

当町と比べてみると政務調査費を条例化し政策研究、町民への広報活動等に活用していることや、議員なり手不足解消の為に、住民に開かれた議会とする為に、中学生による議会の開催なども年次計画で行うなど、画期的な運営がなされています。

公共交通では、町民が平日のみではありますが、1回の利用が300円と格安に設定されたデマンドバス公共交通サービスのシステム（ビークルアシスト）に取り組んでいる町です。

議会改革とともに、わが町の地域交通の在り方の参考としていきます。

## 北海道東神楽町（8月1日）

### テーマ「移住定住」

東神楽町は、旭川市に隣接する人口1万人程の町で、昭和の中頃より、人口が増え続け、過去30年一度も人口減少していない全国でも珍しい自治体です。

また、平成元年から始まった大規模宅地開発等、町全体が生活しやすくコンパクトなまちづくりを進め、全国でも有名なコンパクトシティの成功事例となっており、5700人だった人口が、昨年には1万人を超えたそうです。

さらに、「安心して子育てができる町」、「少ない自然災害」、「治安の良いまち」これらを目指し、子育て施策を充実させています。

しかしながら、人口増加の直接的な要因はそれだけではないと町も判断しており、人口増への特効薬的な施策はないのではないか、人口増のためには総合的な施策が必要となる等の意見交換もなされ研修は充実したものとなりました。今後これらの研修で得た情報をまちづくりに活かしてまいります。



# 見聞を広めて、町の

## 群馬県嬭恋村（7月17日）

### テーマ「財政健全化への対応」

嬭恋村は、平成16年6月公布の財政健全化法で、実質公債費比率が早期健全化基準の25%を超えることが判明し、平成20年9月に「第2次財政健全化計画」を策定、平成21年には財政健全化団体に転落しました。財政悪化の原因はキャベツを主とした国の開拓パイロット事業費の膨張による負担金額の増加、冬場の雇用創出のためのスキー場の開設が大きな要因であります。

その後、「財政健全化計画」と嬭恋村独自の「第3次財政健全化計画」を策定し、今は財政を克服して、キャベツの一大産地として大規模な農家、雇用の創出が形成されており、財政再建に取り組んだ実績のある町であります。

村長・特別職・議員の報酬、職員給与の削減を実施し、職員は退職者不補充、指定管理制度により10施設での削減、マラソン大会・つまごい祭りなど各種団体の補助金の削減、自治会長・区長の報酬削減、敬老会事業の簡素化などを実施し、財政支出の削減を図ったとのことでした。

財源増対策として、当村は別荘地が多く、その固定資産税の滞納対応に税務課と村役場の幹部で村内を訪問し徴収増に努めたり、下水道料金を値上げ、未利用地の売却、ふるさと納税や協力金、有料広告など収入増に取り組みました。

また、普通交付税措置の無い借入の繰り上げ償還を積極的に行いました。

その結果、平成27年度では実質公債費比率8.4%、将来負担比率18.2%と着実に健全化の道を進んでいるということをお聞きしました。





## みなさんの声

日本大学 黒坂騎羅弥

議会を傍聴する前は内容が難しいという印象があったのですが、事前に紙に質問する内容が書かれていて、何について話しているか理解しやすかったです。また、地域の人の理解してもらいたいという内容の話がたくさんありました。議会の内容は地元の人から理解しやすいと思うので、まだ議会傍聴をしたことがない人は一度体験すると、その地域では何をしようとしているか理解でき、その議会の内容で思ったことを共有することで地域がより活気があふれよりよいものになると思いました。また、傍聴する人が多いと議会の空気が引き締まると思えました。

も感じられ、その意見が実際に通ったら町は良くなつていくと、実感しました。いつもは長い50分という時間が一生懸命に伝えたいことを伝えることでも短い時間のように感じました。議員の方々の話には何回も住民の方々の声に基づいた話が出てきていて、しっかり住民の声は町の会議に届いているんだなと思いました。また、役場の方々も議員の質問一つ一つにしっかりと答弁していて、町がよくなる議論が作り出されているのではないかと思えました。

日本大学 緑川 裕貴

議会傍聴の第一印象は、質問の質問・要望に対して、事務的回答ばかりしていて、何の進展もない。ただの意見交換の場になっていくように見えました。しっかりと取り組みをやっているのであれば、現状を踏まえ、取り組み内容とその成果を詳しく示してほしいと思えました。具体的な説明ができないのであれば、議会に対して準備不足なのではないか。執行部の財政が厳しいというの聞いていて、理解できません。しかし、だから、できないではなく、せつかく議会という話し合いの場なので、お互いの意見を尊重し、厳しい状況の中、何ができるのか、どうすれば実行できるのか、を考え、議会で話したことを、今後の取り組みにどう活かして実行していくかが重要だと思えます。

日本大学 小保 健人



私が議会傍聴に参加して思ったことは、人口減少と予算縮小がどの質疑応答でも話題になったことです。人口減少

少に関しては、交通や買い物に徒歩で済むような、より住みやすい都心部に流入していくことが原因なのではないかと思えました。過疎化を防ぐには、衣食が充実させやすい施設を誘致するべきかと考えられます。予算縮小については、統廃合して使用しなくなった学校などの現在会津坂下町が持つ資産の価値を、一度膨大な情報を持つ専門の企業に依頼して、資産がいつまでもどのくらいの価値を持つのかはつきりさせるべきだと思えました。



## 編集後記

9月議会は前年度の決算を審査する決算議会とも呼ばれています。前年度の決算を厳しく審査する事が次年度への予算に繋がる重要な議会であります。定例会の開会中に台風15号が房総半島を直撃しました。予想を超える被害の拡大を見る時、風害による想定外の甘さや被害状況の確認の遅さが指摘されていますが、大規模な停電や屋根の被害は避けられなかったとしても、非常用食糧の備蓄は当然として、電力や通信が使えなくなる事も想定する等、危機に備え多少なりとも被害を軽減できる対策を日頃から考えておく必要があるのではないのでしょうか。近年続く自然災害、せめて今冬は記録的な豪雪などといった報道が無い事を祈りたいと思います。

(委員長 猪俣恒雄)

- 議会報編集特別委員会
- 委員長 猪俣 恒雄
  - 副委員長 赤城 大地
  - 委員 横山 智代
  - 委員 三橋 薫
  - 委員 五十嵐 正康
  - 委員 酒井 育子

